

## 協会の活動から

### 第10回 女子中高生のための関西科学塾（A日程：2015年7月26日）

奈良女子大学；准教授 松岡由貴

10年目を迎える“女子中高生のための関西科学塾”、今年度も活動が始まりました。

科学塾の人気は年々高まっており、今年は502人の応募がありました。抽選で実人数413人、5日程全てを足すとのべ1019人が参加する予定です。今年度初回のA日程は7月26日に神戸大学発達科学部を会場にして開催されました。スッキリと晴れ渡り、蝉が賑やかな夏日でしたが、中・高校生180人が六甲山上のキャンパスに集い、女性研究者・技術者や、科学塾OGの話に耳を傾けました（図1）。

科学塾は、元々は有志の先生が知り合いや男女共同参画学協会連絡会に働きかけて実験講師や会場の確保を行い、始められたもので、第3回までは自然科学系学会が運営に深く関わっていたのですが、年複数回開催となった第4回あたりから、主な実行委員が所属し、会場も提供してきた神戸大学、大阪大学、奈良女子大学、京都大学による運営、という色合いが強くなってきました。2年前から大阪府立大学も加わり、現在は関西の5国公立大学が協定を結んで、毎年主幹校を持ち回りにし、継続していく、というスタイルで運営されています。

女子中高生を対象とする理系イベントでは、関東の“女子中高生 夏の学校”が有名で、こちらも大人気ですが、科学塾と夏の学校は異なる特色を持っています。夏の学校では、女性教育会館に2泊3日で宿泊しながら、実験講座や国際交流、キャリア相談などを行っています。一方、関西科学塾は年間複数回開催です。初回は大抵女性研究者・技術者・女子大学院生のリレースピーチと、中高校生のグループトーク。2回目以降は大学の研究室で実際に研究に使う機器を用い実験する（秋頃に2大学ずつ、2回実施）、研究所見学。年度の最終回は宿泊を伴い、初日に大学で実験し、宿泊先で実験内容のまとめ、2日目は実験講座毎にプレゼンする、というスケジュールです。実験講座は基本的にその回の会場校の教員が講師を務めるので、回毎に実験分野が異なります。また、近い分野の実験講座でも、担当する講師によって切り口が異なります。中には「中1から参加して、今年で4年目です」という人もいるほどリピーターが多いのは、この実験講座の多様さに魅力を感じてくれているからでしょう。

科学塾OGの進学先は、女子学生が多い生物・化学にとどまらず、なかなか女子学生率が上がらない土木などの工学系もあり、実行委員の間でも「渋好みだね〜」と話し合っています。“多様な分野の実験講座がある”、“大学の研究室で、実際に研究に用いている装置を使い実験する”、“女性研究者・技術者、女子大学生のリアルな日常の話聞く”ことが、ハードルが高くなりがちな分野への進学を決意するきっかけのひとつになっていると言えます。

科学塾の今後の課題のひとつは、「企画立案や運営に携わるOGを増やす事」。科学塾も西日本の各地から参加していますが、夏の学校の参加者が日本全国から集まっている理由のひとつには、企画の面白さもある、とのこと。大学生～社会人になって間も無い“お姉さん”が考える企画の方が中高校生にアプローチしやすいのは確かでしょう。また、運営に関わる事で、OG自身が科学の面白さ・奥深さにより触れ、自らの将来（大学院進学や就職）を具体的に考えられる、というメリットもあります。

幸い、科学塾も熱心なOGが20名ほど名乗りを上げ、今年度から講演を行ったり企画・運営に携わってくれています。今後、ますます多くのOGが加わってくれる事を期待しています。

日本鉄鋼協会、日本金属学会は初回から参加・協力をしており、第2回目の2007年度から実験講座担当、実験用備品提供を続けています。鉄鋼協会・金属学会男女共同参画委員会内で実験テキスト作成や互いへのアイデア提供を行い、内容も年々充実してきていると思います。

貴重な女性人材を、特に女性が進みにくい分野へ送り出す役割を担う一助になってきた事は誇るべきであり、これからも協力を続けていきたいと考えております。学会員の皆様にも、是非興味を持っていただき、時にはご協力いただけるとありがたいです。



図1 A日程で、科学塾OGの大学院生の講演に聴き入る中高校生達

\*日本金属学会「まてりあ」Vol.54 No.10にも同時掲載

(2015年7月31日受付)